



労働意欲と自主性

クロダインターナショナルコンサルティング

黒田 毅

意欲は、全てを可能とする。これが GAFAM の絶対的な強さなのである。労働意欲は自主性における創造性という新しい企業環境において実現できるのである。

強制という現実はい欲を減退させるのである。日本的経営が自主性におけるビジネス社会の形成を有する事は企業社会とライフスタイルにおいて真実なのである。

これらは社員が創造性という新しい現実へ参加することで、新しい現実を企業が有することができるのである。

意欲は現実を与えるものであり、優れた企業風土は、社員の自主性とともにより優れた企業環境を有するのである。

これらはアメリカの企業風土が、新しい創造性を有することの真実として企業が理解を要求されて良いと考える。

これらは自主性と責任というアメリカのスタイルは、こんにち創造性とともにより世界における基準を有するのである。

これらは日本企業がそれら基準を受け入れることで実現できるのである。これら新しい企業風土は、オフィスや生産環境、労働基準など、自己転換を経て、時代性への到達を実現できるといふことなのである。

意欲は結果の基盤であり、優れた企業風土は社員の意欲を奪わないのである。

これらは可能性や創造性という、新しい挑戦であり、これらは企業基準の転換とともに、企業のコアプレーヤーとして新たに市場参加を実現できるのである。

これら意欲という源泉は、新しい可能性の基盤とした必ず正しいのである。